

## SKTS

日時：2019年5月14日

時間：20時30分～20時50分

出席者：五島、佐藤（）、堀尾、吉田かおる

【地域の居場所におけるアドバンス・ケア・プランニングの可能性】佐藤惟さん：発表

- 目的
- 企画概要：終活講座とデスカフェをあわせたような企画を開催。◆2時間の講座。惟先生からの話、地域の専門職からの話、看取りを経験した家族からの話。
- 惟先生の話がちゃんと高齢者に伝わるかを評価してほしい、と本人。
- 高齢者との話すきっかけをつくるのは難しい
- できれば地域の専門職がからめば、別に講師がいなくても十分できるのではないかと考えている。
- 誰もが明るく笑って最期を迎えるための「人生会議」講座というものを企画した。
  
- 自己紹介
- 私の問題意識「延命治療」の是非…人工呼吸器や胃ろうなどの延命治療→食事も外出もできず、ずっとベッド上。◆経済的な問題（国も家族も）◆ケアに当たる人もどう接してよいかわからない？右や現在、延命治療は行わず、自然に任せてほしいというのが9割の意見
- 「事前指示書」について…「延命治療はうけたくない」といった希望を文書に記しておく。◆リビングウィル。最近では自治体が。
- 「事前指示書」の問題。→医療現場ではなかなか活用してもらえない。なぜなら、本人が本当に治療の意味を理解して欠いたのか？◆指示書を書いたときと、倒れたときとで気持ちに変化はないか？…元気なうちから会議が必要
- 人生会議…アドバンス・ケア・プランニングは、昨年11月に「人生会議」と呼ばれるようになった。
- 惟先生の祖母の話。2年前に倒れ、口から食べられず、鼻から管を入れるようになった。病院で療養された。
- 祖母の経験から：84歳、元気いっぱいに動きまわっていたところから、脳梗塞のため急速に寝たきりになった。点滴で栄養をとることになり、約9ヶ月の入院期間。子どもたちが毎日かかさず、お見舞いにきた。…延命治療があつて良かったといえる。しかし、5年、10年経過するとなるとどうかは不明。
- 「旅立つ人」と「看取る人」の気持ちのすりあわせが大事。◆ぴんぴんコロリは本人は良い？ 家族は辛い。◆元気なうちに「どこでどんな療養生活を送りたいか？どれくらいの期間なら受けても良いか？などを周囲と話し合っておくのが「人生会議」一度始めた治療の「中止」を認める機運が高まっている。
- 人生会議をする上での悩み。自分がどうおもっているのかよくわからない。簡単に決められない。→1か0かではなく、まずは大まかに気持ちをチェック。◆友人とはいくらでも話せるけど、家族とはかえって話しにくい。→第三者を巻き込みましょう。

- 話し合っておくべき事項：◆葬儀のこと、お墓のこと、延命治療のこと、相続やお金のこと、持ち物の整理、緊急連絡先、自分史
- ケアマネ：最期を迎えたい場所、延命治療のこと、緊急連絡先、代理人…
- 人生の最後を明るく迎えるには？◆関係：家族との時間、寄り添ってくれる人、人や社会のつながり。◆場所：安心できる居場所、生活の雰囲気、団欒・笑い ◆ケア：スキンシップ、ぬくもり、苦痛の緩和、人生の理解者…自宅か病院かで大きく変わってくる。
- まとめ：誰もが明るく笑って迎える最期とは、無くなりゆく本人も、看取る家族も、それを支えるケアチームも、みんなが納得できること、そのためには、事前の準備＝話し合いが重要。話し合いは、本人と家族の心の準備。「場所」「機関」について考えておくことが大事。◆とはいえ、何度もこの話をするのは気が滅入る

#### 【少々、議論】

- 惟先生の発表資料はとても良かった。
- 人生会議は硬い、重苦しい感じがしてしまう
- この間、吉田さんの親族で人生会議らしいことが行われたが、飲みながらそんな話をした。
- 対象は70歳代かな。
- 人生会議コーディネーター
- 話しても意思決定が変わってしまう。

#### 【次回予定】

2019年6月11日（火）

20時00分～

ふれあい歯科ごとう